

### 2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番 47	福山市立駅家小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

## I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

## II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登下校時に、児童・生徒が気持ちよい挨拶をする姿が見られるようになっている。</li> <li>○各校で課題を明確にして取り組んでいる。授業や行事を通して、児童・生徒が一生涯学びを深めていると感じる。</li> <li>○学校・保護者・地域が互いに連携・協力を深め、児童・生徒を育てていくことが重要である。</li> <li>○各校で、今後も、目標をもって思い切って取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の定着に向けての取組の結果、「できた」「わかった」と実感できる児童・生徒が増えている。引き続き基礎学力定着に向けて取り組む。</li> <li>○中学校区で、家庭学習の習慣・スマホ・メディアとの適切なかわり方について取り組んでいる。まだ十分な成果が出ていないので、家庭との連携を深め、取組を継続する。</li> <li>○行事やボランティア活動を通して、「全力で頑張ったやり切った」と感じることができた児童・生徒が増えており、自己有用感・自己肯定感が高まっている。</li> </ul>	<p>育成する資質・能力</p> <p>思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信</p>
		<p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに、学力の定着・向上を図る。</li> <li>○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。</li> <li>○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。</li> </ul>

## III 自校

学校教育目標
自分で考えて行動する

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「クラスや学年、学校の役に立つ。」という視点で掃除や当番、係活動を工夫した。(70%)</li> <li>○「家庭学習を各学年の目標時間以上行っている。」と答える児童の割合は 72%、実態調査では 69%であった。基礎学力を向上させるために、保護者と連携を図りながら家庭学習の定着を図る必要がある。</li> <li>○メディア使用時間の目安3時間は90%以上達成したが、使用時間が長過ぎる。来年度は、目標の見直しを行う。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で学びを進めたり、何度も試行錯誤を行ったりする姿が見られる。</li> <li>○計算・漢字など、基礎学力の定着に課題がある。児童一人一人の基礎学力の定着と、学習意欲の向上を目指し、より一層教材研究や授業づくりをする必要がある。</li> </ul>

育成する資質・能力	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信	
めざす子ども像	低学年	意図をもって、選んだり行動したりすることができる。	自分と友達のよさに気づき、考えを伝え合うことができる。	わかったこと、できたこと、できるようになったことなど、自分自身を振り返ることができる。
	中学年	よりよい考えや解決のために、意図をもって選択したり選択し直したりすることができる。	自分と友達の相違点に気づき、認め合いながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	自分のよさや身に付いた力、課題などに気づき、生活に生かしたり改善したりすることができる。
	高学年	自己決定と自己調整を繰り返しながら、よりよい解決や生き方を見付け、生活に生かすことができる。	多様な他者の考えや個性を受け入れ、自分の考えを論理的に伝えることができる。	自分や他者のよさを認め合い、「なりたい自分」に向けて、客観的に考えて取り組むことができる。
研究	テーマ	児童が「分かる・できる」喜びや楽しさを実感できる授業づくり ～算数科・図画工作科・自立活動の授業実践・改善を通して～		
	内容等	児童が「分かる・できる」喜びや楽しさを実感することができる授業づくりを行い、児童の学習意欲、学力の向上を図る。研究の視点を、算数科・図画工作科・自立活動に絞り、「基礎学力の定着」「豊かな心の育成」「学びに向かう力の向上」を目指す。		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人のつまずきや教科の特性を捉えた、児童が分かる授業。</li> <li>・想像力豊かに発想することができる授業。</li> <li>・自己の課題を克服しようと取り組める授業。</li> </ul>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 駅家小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら考え学び、基礎的な知識・技能の定着を図る	★	新規	○教材研究や研究授業、校内研修を充実させ、授業・家庭学習を通して基礎基本の力を定着させる。	○授業づくりポートフォリオを活用した児童のつまずきの分析と、深い教材研究や分散学習を通して、授業改善を図る。○家庭学習につなげる。	○学期末テスト知識技能の項目で到達度(平均)75%以上。 ○家庭学習の時間達成児童80% 低学年:30分以上 中学年:45分以上 高学年:60分以上	教育研究部 教務部								
3	生きる喜びを実感できる児童の育成		継続	○自分で考えて行動できたことを評価し、自己有用感を高める。	○低学年・・・「ありがとう」と言ってもらえたことや、見つけた友達の良いところを掲示物に貼っていく取り組みを各学期に一回行う。 ○高学年・・・実行委員等学級や学年全体のためになる活動を一人一回は行う。委員会活動の振り返りを書き、担当教員がコメントや評価を行う。	低学年・・・「このクラスで頑張る気持ちが出てくる。」児童の割合80%以上 高学年・・・「○○をしたことは、自分にとってはよかった。」or「○○を頑張ってよかった。」児童の割合75%以上	生徒指導部								
1	地域や学校に貢献できる児童の育成 自らの健康に関心をもち、意欲的に取り組む態度の育成		新規	○地域と協働した学校づくりを進める。 ○規則正しい生活習慣を身につける。家庭生活の見直しを行う。	○地域の人材や教材を生かした学びを行う。(カリキュラム作成) ○保護者と協力・連携し「7つの目標カード」に取り組む。特にスマホやタブレット等の情報機器の使用時間を減らす取組を行う。	○各学年年間2回以上実施 ○平日のスマホ・ゲーム利用時間2時間未満の児童80%	教務部 健康安全部								
1	教職員が生き生きと働ける職場づくり		新規	○自ら研究と修養に励む教職員集団を育成する。 ○児童に向き合う、授業づくりの時間確保をする。	○教職員の意欲を重視した研修や学年での教材研究を実現する。 ○積極的な生徒指導の推進・児童、保護者との信頼関係の構築に取り組む。	○「仕事にやりがいを感じている」教職員を80%以上にする。	教頭								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。